

各 位

積 水 ハ ウ ス 株 式 会 社

\*\*\*\*\*

**「第7回キッズデザイン賞」5部門で10点の受賞  
賞の創設以来、積水ハウスは7年連続で受賞達成**

\*\*\*\*\*

積水ハウス株式会社（本社：大阪市北区、社長：阿部 俊則）は、7月5日（金）に発表されたキッズデザイン協議会（内閣府認証 NPO、本部：東京都港区）主催の「第7回キッズデザイン賞」において、コドモ里山ラボ 東京森都心、小児がん治療中の子どもたちとその家族のための夢の治療環境「チャイルド・ケモ・ハウス」、東日本大震災被災地で、みどり豊かで笑顔あふれるまちを目指す「まちみどりプロジェクト」など、計5部門で10点のキッズデザイン賞を受賞しました。当賞の創設以来、7年連続の受賞となります。

キッズデザイン賞は「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインの理念を実現し、普及するための顕彰制度です。乳幼児用品や玩具などの子ども向けの製品・サービスに限らず、大人向けのものでありながら子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動なども対象としており、受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められます。

なお、7月29日（月）には全受賞作品211点の中から最優秀作品として今年度から新設された「内閣総理大臣賞」1点と「経済産業大臣賞」4点「少子化対策担当大臣賞」2点、「消費者担当大臣賞」1点、及び優秀賞等が発表される予定です。



受賞項目は下記の通りです。各項目の詳細については次頁以降を参照ください。

**<子ども視点の安全安心デザイン>**

**子ども部門**

- ☆ 小児がん治療中の子どもたちとその家族のための夢の治療環境「チャイルド・ケモ・ハウス」(※1) (所在地：兵庫県神戸市)
- ☆ 安全・安心で、経済性も高く、環境に配慮したグラウンド用ライン材「プラタマパウダー」(※2)

**<子どもの未来デザイン>**

**創造性・感性部門**

- ☆ 子どもの感性や創造性を育む分譲マンション「グランドメゾン狛江」 (所在地：東京都狛江市)

**学び・理解力部門**

- ☆ キッズデザイン体験施設「コドモ里山ラボ 東京森都心」(※3) (所在地：東京都八王子市)
- ☆ 「5本の樹」計画を活用した全国での自然教育活動
- ☆ 子どもたちのふるさとになる街づくり「グリーンヒルズ湯の山」(所在地：愛媛県松山市) (※4)

**<子どもの産み育て支援デザイン>**

**個人・家庭部門**

- ☆ キッズ&ベビーでさいん賃貸住宅「シャーメゾン」
- ☆ 親子いっしょの楽しみがもっと広がる生活提案「モビリティライフ」

**<未来を担う消費者デザイン部門>**

- ☆ UDを見る確かな目を育む「ドクターユニバーサルデザイン授業 ～小学校での取り組み～」(※5)

**<復興支援デザイン部門>**

- ☆ 東日本大震災被災地で、みどり豊かで笑顔あふれるまちを目指す「まちみどりプロジェクト」(※6)

(※1) 公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金、NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス、手塚貴晴+手塚由比/手塚建築研究所との共同応募  
 (※2) ㈱グリーンテクノ21との共同応募 (※3) ㈱アクタス、ココヨ㈱、㈱ジャクエツ、パナソニック㈱と共同応募  
 (※4) グリーンヒルズ湯の山団地まちなみ景観委員会との共同応募  
 (※5) 大阪府産業デザインセンター・大阪府豊中市立上野小学校との共同応募 (※6) 積和建設東北㈱との共同応募

<本件に関するお問い合わせ先>

積水ハウス株式会社 広報部  
 (大阪) 06-6440-3021 (東京) 03-5575-1740



## ■各受賞内容について

### ★ 小児がん治療中の子どもたちとその家族のための夢の治療環境「チャイルド・ケモ・ハウス」

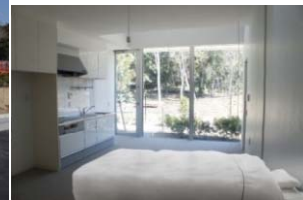
(公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金、NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス、手塚貴晴+手塚由比/手塚建築研究所との共同応募)

子ども視点の安全安心デザイン 子ども部門

小児がん治療中の子どもたちとその家族のQOL (Quality Of Life—生活の質) に配慮した日本で初めての専門治療施設。

自分の家のような環境で家族が共に暮らしながら小児がん患者が安心して化学療法を受けることができる。建設プロジェクトの考え方に共感し、住宅業界トップメーカーとして積水ハウスは参画し総合企画設計と施工を担当したほか、寄附も行っています。建築家・手塚貴晴氏+手塚由比氏のデザインと、工業化住宅の高品質、先進技術のコラボが実現。

こども目線での化学物質配慮を徹底した「エアキス」の採用など、安全・安心・快適な空間が実現しました。



「チャイルド・ケモ・ハウス」アドレス <http://www.kemohouse.jp/>

### ★ 安全・安心で、経済性も高く、環境に配慮したグラウンド用ライン材「プラタマパウダー」

(株グリーンテクノ21との共同応募)

子ども視点の安全安心デザイン 子ども部門

「プラタマパウダー」は、住宅建築で使用するプラスターボード(※)の端材と卵殻をリサイクルして作ったグラウンド用ライン材です。

リサイクル製品としてエコマークの認定を受けています。ほぼ中性であるため、子どもの体や土壌にやさしく、さらに炭酸カルシウム製の従来品に比べ、同じ容量でも重さは約半分であるため、物流に伴うコストやCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献でき、しかもラインをより長く、ムラなく引くことが可能です。グリーン購入法適合商品でもあり、全国の小中学校やスポーツ団体等での利用実績が増えています。



(※) 固めた石膏を芯材として板状にした建材で、石膏ボードとも呼ばれています。住宅の内壁や天井等の下地材として多く使われています。

### ★ キッズデザイン体験施設「どうきょうしんとしんコドモ里山ラボ 東京森都心

(株アクタス、コクヨ(株)、(株)ジャクエツ、パナソニック(株)と共同応募)

子どもの未来デザイン 学び・理解力部門

子どものためのユニバーサルデザイン・アイテムを開発して住まいに導入することで、より安全で安心な暮らしを提供する生活提案「コドモイドコロ」に基づき、異業種5社のコラボで設計・開発。空間・環境全体でキッズデザインを体験できる日本初の試みのキッズデザイン施設です。

キッズデザインを生活空間で体験できるモデル棟と、クルドサック(自動車の通り抜けを排除するために設ける方向転換が可能な袋小路)を囲むモデル棟を含む4棟の住宅からなる街区で構成されています。

積水ハウスの生活提案「コドモイドコロ」は、キッズデザイン協議会が2013年10月1日から開始する「CSDガイドライン認定」制度(子どもの安全性の向上のための業界横断型ガイドラインを適用し、デザインプロセス評価と企業が実施した製品評価の確認を主体とした認定制度)の先行認定第1号として認定されました。



「コドモ里山ラボ 東京森都心」アドレス <http://www.sekisuihouse.com/style/suggestion/kids/satolab/>



## ☆ 子どもの感性や創造性を育む分譲マンション「グランドメゾン狛江」（所在地：東京都狛江市）

子どもの未来デザイン 創造性・感性部門

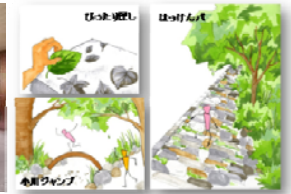
子どもの創造性や感性を育む住まいとして、「人と人」「人と自然」「住まいとまち」がつながることによる豊かさを追求した総戸数524戸の分譲マンション。

従来の子育て世代向け住宅は大人にとっての育児のしやすさや家事負担の軽減などを目的とした「子育て」視点の提案が主流でしたが、子ども自身が持って生まれてくる成長・発達ポイント「生きる力」を育む環境づくりを考えた「子育て」視点も大切だと考え、「子育て」と「子育て」両方の視点を併せ持つ住まいを提案しています。

「こどもOSランゲージ」をもとにした子どもが自ら楽しく学べる『五感スイッチ』、「クレヨンハウス」セレクトによる『絵本ライブラリー』、積水ハウスが提唱する「5本の樹」計画を共用部にデザインしました。



「絵本ライブラリー」



「五感スイッチ」

## ☆ 「5本の樹」計画を活用した全国での自然教育活動

子どもの未来デザイン 学び・理解力部門

2001年から推進する「5本の樹」計画の取り組みの一環として、2006年に本社がある新梅田シティ（大阪府大阪市北区）の公開空地内に約8000㎡からなる「新・里山」を造成、中でも子どもの情操教育に力を置いて取り組んできました。2007年より教育支援活動を毎年実施しており、近隣の幼稚園、小学校と連携して、体験学習を実施しています。

さらに、学校の校庭の緑をつかって生態系を学ぶ出張授業「Dr.フォレストからの手紙」（実績：出張授業60回、3867人）や、各地の分譲地にて生息する生き物をその地域にお住まいのオーナー様や子どもと共に観察する「いきもの観察会」を実施。また実際の里山を活用した植樹や下草刈りなどに取り組む「企業の森」活動など、幅広い教育活動へと発展を遂げています。

このような活動を継続的に取り組むことで、当社の「5本の樹」計画の考え方が全国へ浸透し、植栽本数100万本を突破。生態系の保全や経年美化のまちづくりに貢献しています。



## ☆ 子どもたちのふるさとなる街づくり「グリーンヒルズ湯の山」

（グリーンヒルズ湯の山団地まちなみ景観委員会との共同応募）

子どもの未来デザイン 学び・理解力部門

住宅メーカーとして住まいをご提供するだけでなく、子どもたちが将来「帰ってきたくなる」ふるさとづくりを目指しました。

1986年から始まった新しい街づくり「グリーンヒルズ湯の山」は、「人間性豊かな暮らしを提供します」を開発理念として計画総戸数1192戸の大型戸建て団地へと成長しました。豊かな自然に囲まれた街では、住民参加型の緑地づくりも積極的に行われています。また、コミュニティ菜園では老若男女、世代を飛び越えた交流が始まっています。毎年、住民の方々が主催する「夏のフェスティバル」「秋祭り」なども行われ「人と人のふれあい」「人と自然のかたらい」が街全体に広がっています。その他、コミュニティホールでのサークル活動も人と人の輪を広げています。平成24年度 住宅生産振興財団の住まいの「まちなみ賞」を受賞しました。



## ☆ キッズ&ベビーでざいん賃貸住宅「シャームゾン」

子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門

幼少期の子どもを持つ家族の比率の高い賃貸住宅こそ「いい環境」を創り出し、豊かな環境のなかで子育てしてほしいという思いで、これまでの賃貸住宅になかった価値を提案し、その普及に努めています。

### 建物計画について

安全に配慮した建具や空気環境で子どもを安心して育てられる環境を提供。また子育て世代の要望として高い、ベビーカーを収納可能な「バギーピット」を玄関に設置、楽しみながら毎日のお片付けの習慣ができる子ども専用の「ベビークローゼット」など充実した収納計画などを提案。

### 外構計画について

住む人にも街にも「いい環境」をつくりだすよう5つの「環境プレミアム」を指標に25のチェック項目を設定した評価システムを開発。安心・安全をもたらす設計（歩車動線の工夫、防犯への配慮など）、豊かなコミュニティデザイン（入居者の自然な交流をはぐくむコモンスペース）、自然環境の保存・創出など子育て世帯に優しい外構計画を提案しています。



## ☆ 親子いっしょの楽しみがもっと広がる生活提案「モビリティライフ」

子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門

自動車だけでなく、ベビーカーに始まり三輪車、自転車、車いすなど、乗り物とつながる暮らしの提案を「モビリティライフ」として、様々な住まいの設計手法やオリジナルアイテムを開発しました。

パパママが子育てしやすく、多世帯同居でも子どもや孫と一緒にワクワク楽しめる提案や、車いすやベビーカーでも車に乗り込みやすく外に出掛けやすくなり、家に招きやすくなる提案を実施しています。

### 【子どもと一緒に楽しめる生活提案】

- ・趣味やレジャー、遊び用品など、出掛けたくなるガレージの「収納設計」
- ・日々のお出掛けや買い物が楽々快適なガレージの「動線設計」
- ・ガレージに車が無い時は、雨や日射しを避けて安全、快適で見守りもできる遊び場としての「空間活用」



## ☆ UDを見る確かな目を育む「ドクターユニバーサルデザイン授業 ～小学校での取り組み～」

(大阪府産業デザインセンター・大阪府豊中市立上野小学校との共同応募)

大阪府豊中市立上野小学校3年生向けに、総合的な学習の一環として2年連続実施しています。

普段の生活の中や家など身近なところにもたくさんあるユニバーサルデザインに気づくきっかけを作り、実際に校内のユニバーサルデザインをグループで探しに行く授業を実施。考えるだけでなく、子どもたち自らが「なぜ・どこがユニバーサルデザインなのか」を考え伝えることで、子どもたちの確かな目「UDリテラシー」を養う。将来のモノ選びの際に、自分の意思でユニバーサルデザインを取り入れることのできる子どもを育てるための取り組みです。

未来を担う消費者デザイン部門



## ☆ 東日本大震災被災地で、みどり豊かで笑顔あふれるまちを目指す「まちみどりプロジェクト」

(積和建設東北との共同応募)

復興支援デザイン部門

2010年より地域の里山で、自生種・在来種の種を拾って育て、みどりを地域に広げる活動を宮城県仙台市で実施しています。震災前に里山で拾った種が、震災後に芽を出し、それを「希望の苗」として、宮城県石巻市の公園や仮設住宅に提供し、失われたみどりの再生に取り組んできました。

さらに、宮城県石巻市の宮城水産高校第1・第2仮設住宅で、みどりの力をコミュニティづくりに生かすべく、仮設住宅自治会（住民参加）、障がい者福祉施設（ゴーヤの苗育成）、NPO法人（活動支援）と連携して、ゴーヤのグリーンカーテンを設置。子どもたちは、ぐんぐんと成長するゴーヤを育て観察することで、生きる意欲と力をはぐくみました。また、収穫したゴーヤを使った料理を持ち寄り、食事会を開催した「収穫祭」実施時にはゴーヤのお絵かき会も開催し、子どもたちの環境意識啓発につなげました。

